はじめに

・**バラバラクラス**――クラスとしてのチーム意識が低く団結力がない
・**空回りクラス**――やる気はあっても課題解決能力が低く上手くいかない
・**指示待ちクラス**――言われたことには取り組むが、常に受け身で自ら考えることはしない

あなたのクラスはこれらのクラスに当てはまっていないでしょうか？

もし、当てはまっていたとしたら、そのクラスはまだまだ伸びしろがあります。

私も初めから上手くいっていたわけではありませんでした。実際に私が初めて担任したクラスは「空回りクラス」であり、「指示待ちクラス」でした。この時、私はクラスに対して「チームワークの大切さ」を必死に伝えていました。毎日のように「チームとしてどうあるべきか」「チームワークを高める為にはどうすればよいか」というメッセージを伝え続けていました。だからこそ、行事などではクラスで一致団結しようとするクラスになりましたが、教師がリーダーとなってクラスを引っ張っていき、生徒は言われたことを一生懸命行うだけのクラスになってしまいました。

自分の前にいるときだけできる子どもを育てればいいのか

私は学生時代、特に高校生の三年間は夢中になってバスケットボールに打ち込んでいました。この三年間は技術や体だけではなく、心の成長を感じた三年間でした。バスケットボールはチームスポーツです。個人が上達することも大切ですが、チームとして協力することで、一人一人の能力では勝てない相手にも勝つ事ができます。だからこそ、自分勝手に行動するのではなく、どうすればチームに貢献することが出来るのかを考えるようになり、仲間と協力することの大切さを学びました。チームメイトと同じ目標に向かって取り組む中で、私自身がこれまで以上に努力することができるようになったり、仲間のことを考えることができるようになり、心が磨かれたと感じました。そして、心の底から実感したことがあります。

それは、そうした仲間との日々の中で「**磨かれた心は一生の強みになる**」ということです。

この経験から、私は「人の心を育てる仕事をしたい」という思いが強くなり教師を志しました。しかし、担任になりたてのころは、自分がクラスのリーダーとして「俺についてこい」というスタイルで学級経営を行なっていました。

ただただ必死でした。学校行事なども率先して引っ張りました。クラスの課題を見つけ、どうすれば解決できるかを考え、全て自分で解決しようとしていました。

この頃の私は、教師が問題を一人で解決するだけでは、生徒は本当の意味では成長していな

いということに気が付いていませんでした。

今思うと、生徒の力を心の底から信じることができていなかったように思います。

しかし、当時の私は、生徒が行事などに一生懸命取り組み、盛り上がる姿を見て、クラスがまとまっているように感じていました。

「自分はいい学級経営ができている」

そう思っていました。何年か担任をして、学級経営の方法が少しずつわかってきた頃です。別の教科の同僚の先生からこんな言葉を言われました。

「先生のクラスは、授業中のメリハリがなくて困ります」

当時の私は、

「そんな事はない。私の前ではいつもメリハリを持って頑張っている。生徒が上手くメリハリをつけることができないのは授業者の問題だ」

しかし、よく考えてみると気付きました。当時のクラスは、決して生徒が「自律」していたのではなく、教師がいて初めて成り立つ「他律」の状態だったのです。

「私は本当に生徒にとって、一生の武器となる心を育てることができているのだろうか……」

教師の前から旅立った後にも、活躍し続ける生徒を目指して

そう思った時に、それまでのクラスのリーダーを教師が行うスタイルではいけないと感じま

した。そして、子どもたち一人ひとりが自ら考え、自ら行動する事で卒業後も活躍できるように育てていきたいと考えるようになりました。

子どもたちは三年間／六年間で卒業します。卒業すれば、私たち教師はこれまでのように毎日、頑張っている姿を褒めることも、生徒が間違った行動を起こした時に叱ることも、生徒の心が折れそうな時に応援することもできません。人生一〇〇年時代、生徒には、小・中学校を卒業した後の人生が八〇年以上もあるのです。

子どもたちは中学校を卒業した後にも、高校や大学、社会人と、新たな仲間や新たな指導者と出会います。その新たな人や新たな成長できる場を経験する時に、子どもたちが「受け身」ではなく、「主体的に行動すること」「自ら課題を解決する能力を身につけること」「他者といい人間関係を作ること」を身に付けていると、子どもの今後の成長の速度がより速くなるのではないかと考えるようになりました。

そこから、教育書に限らず、数百冊の本を読みました。上場企業のチーム作りの本や、経営者の経験を記した自己啓発本、心理学の本などさまざまな書籍に学び、学級経営、教室環境づくり、人間との向き合い方について考え、実践し、それに応えてくれる子どもたちとともに考え方をよりよいものにしてきました。本書ではこうした知識と経験を、学級経営に悩まれる先生方のお役に立てるようまとめました。

本書では「バラバラクラス」「空回りクラス」「指示待ちクラス」といったクラスの状態から抜け出し、子どもたちが自発的に動けるようになるための仕掛けやレクレーションといったアイデアを提案します。また、その前段において、「教師が問題を解決するクラス」ではなく、「生徒が自ら考え、仲間と協力しながら問題を解決するクラス」にするための教師側の考え方、教育観について記します。また以下では、私が中学校の教師であることから、子どもたちのことを「生徒」と記すこと、ご了承ください。

くり返しますが、私自身、初めから学級経営が上手くいっていたわけではありませんし、今でも「こうしとけばよかった」と後悔することもあります。でも、上手くいかない度に、自分で勉強をしたり、多くの先生方と一緒に考えたり、アドバイスをもらったりして考え抜いてきました。そして、少しずつ学級経営で大切にした方がいいことが何なのかが見えてきました。

日々、生徒の為に働いておられる先生方が「バラバラクラス」「空回りクラス」「指示待ちクラス」から脱却し、究極の目標である生徒が課題を解決するために自ら考え自ら行動を起こす「自治的な集団」を目指して行う学級経営の少しでもお役に立てれば幸いです。

学級経営の目的は、良いクラスを作ることだけではなく、良いクラスをつくる過程の中で磨かれた力を生徒一人ひとりの人生で役立ててほしい。そうした先生方との出会いを楽しみにしています。

目次

はじめに　1

第1部

脱「バラバラクラス」「空回りクラス」「指示待ちクラス」

あなたにとって理想のクラスとは？　10
学級経営の鍵は生徒たちの「自治力」　13
自治力を高める中で生徒につく力　14

第1章　主体性　18

第2章　チーム力　34

第1節　チームの意識統一　38
第2節　心理的安全性　47

第3節　フォロワーシップ　65
第4節　リーダーシップ　80

第3章　課題解決能力　89

第2部

自治力を高める取り組み

年間を通して系統的に自治力向上を！　134

第1章　チームの土台を作る一学期　138

取り組み1　学級開きで価値観を共有　138
取り組み2　自己開示で人間関係をつくる　145
取り組み3　クラス目標を決めてチームの進むべき方向性を決める　155
取り組み4　共同作業の中で笑いが起きることで人間関係を深める　159
取り組み5　話すきっかけをつくるテトリストーク　170
取り組み6　親しき仲にも礼儀あり　遊びとは何か　173
取り組み7　今のチーム状況を知る「チーム力測定アンケート」　175

第2章　チーム力と課題解決能力を高める二学期　179
取り組み8　心理的安全性を高める「ハートビーイング」　179
取り組み9　行事の目標設定に「ＷＯＯＰの法則」　185
取り組み10　体育祭やレクにおすすめ　チームビルディングの要素を含んだ種目　191
取り組み11　フォロワーシップ計測アンケート　200
取り組み12　課題の原因を探る「なぜなぜ分析」　202
取り組み13　アイデアを出すための
ブレインストーミング・ブレインライティング　205
取り組み14　課題解決能力を高める「お悩み相談室」　212
第3章　主体性を高め、自治的な集団の完成を目指す三学期　225
取り組み15　ギバーキャンペーン　226
取り組み16　クラスの締めくくりに向けての問い　228
取り組み17　文集　229
取り組み18　「ありがとう」を伝える　229
取り組み19　合格祈願お守り　230
取り組み20　感謝のメッセージ　230
取り組み21　「次のステージでやりたいこと」を語る　233

第2部　自治力を高める取り組み

年間を通して系統的に自治力向上を！

第1部では自治的な集団を作るために大切な理論を解説してきましたが、第2部では具体的にどのようなことに取り組めば良いのかを紹介していきます。

第1部でもお伝えしたように心理的安全性などの高まりかたによって、できることが大きく左右されます。なので、一年間の見通しを持って取り組むことが大切です。そこで、どの時期にどのような取り組みをするかという目安を書きますので、ご参考ください。

まず、大まかな年間計画としては次のようになります。

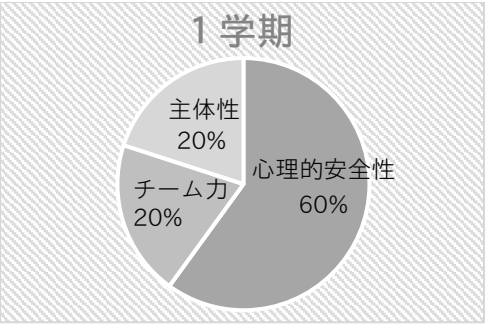
一学期……チーム力①（意識統一と心理的安全性）の向上
二学期……チーム力②（リーダーシップとフォロワーシップ）
課題解決能力の向上
三学期……主体性の向上

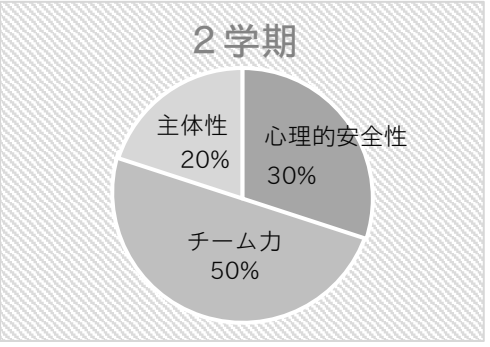
これは最も力を入れるべきものを示しただけで、イメージでいうと次のグラフのようになり

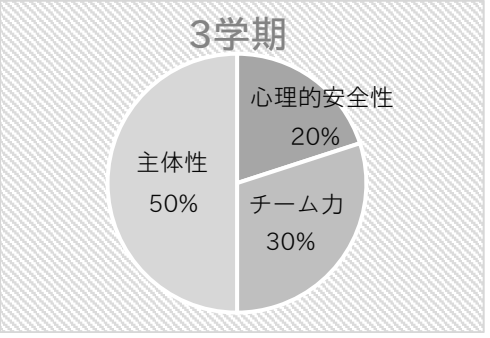
ます。

このように、全ての学期に全ての要素を育てていきます。

様々な要素が絡み合ってチームは成り立ちますので、決して心理的安全性が高まるまで次のステップに行ってはいけないというものでもありませんし、逆を言うと一学期に心理的安全性が高まれば二学期以降に手をつけなくてもいいというわけではありません。







全ての要素を一年間かけて、心理的安全性・チーム力・主体性を螺旋状に何度も高めていくイメージになります。

一学期　周りの出方を伺う生徒たちに安心感を！

まず初めに大切になるのは心理的安全性を高めることです。四月に新しいクラスでの生活が始まったばかりの頃は、お互いが様子を見ていたり、人見知りしたりしている状態です。目立つことをすれば誰かに攻撃されるかもしれないというように周りの様子を伺う生徒が多く不安定な時期です。

まずはこのクラスは安心できる場所であり、このクラスの仲間は自分の話をちゃんと聞いてくれると思えることが大切です。クラスの心理的安全性が高まり、クラスの前で発言することや何かに挑戦することへの恐れがない状態になったら、今度はチームとしての組織力を高めていくことに力を入れます。

二学期　リーダーシップとフォロワーシップを高めて課題解決へ！

ある程度お互いのことを理解し、発言等も増えてきたら、次は意見がまとまるようにリーダーシップとフォロワーシップを高め、具体的な活動が前向きに進むようにします。六五ページにも書きましたが、大切なことはリーダーシップを育てるために、先にフォロワーシップを育て

るということです。そこで、先にフォロワーを育てることで、これまでリーダーシップを発揮してこなかった生徒にとってもリーダーシップを発揮しやすい環境を整えることができます。

リーダーとフォロワーが育ち、自治的な活動ができるようになると同時に、生徒の課題解決能力を高めていきます。体育祭や文化祭といった学校行事で生まれる課題や、日々の学校生活での課題に対してどうやったら課題を解決できるかをトレーニングしていきます。そして、これまでの力がついてきたら最後に主体性を高めていくことに力を入れます。

＝三学期　「〇〇をしたい！」と行動できる生徒たちに！

体育祭や文化祭では、学校行事として、なぜ取り組むのかという目的が設定されているものもありますが、最終的には、生徒一人ひとりが主体的に、クラスの課題を明確にし、その課題を解決する為にどんな取り組みを行えばいいかを考え、実践していくようになる事を目指していきます。

このように、一年間の中で、それぞれの時期に合わせて必要な要素に特に力を入れて育てていくことが効果的です。

以下、おおよその学期ごとに章立てをし、学期ごとのレクレーションや仕組みづくりについての取り組みやポイントを一つずつ紹介していきます。

第1章　チームの土台を作る一学期

＝取り組み1　学級開きで価値観を共有

●チームとしての共通認識を高める

四月にクラス発表が行なわれ、新たなクラスが始まった状態は、「チーム」としての機能はありません。よりよいチームへと成長していく為に、まずはチーム内で価値観の共有をしていくことが必要です。そこで、まずは教師の信念や大切にしたい価値感などを伝えていきましょう。

そのツールの一つが学級通信です。私は学級通信に自分の想いを書き、生徒に熱く語るようにしています。ここでは、私が発行している学級通信のごく一部の内容を示します。そのまま真似をしてもらっても構いませんし、もちろん、先生方の考え方や価値観を織り交ぜて、オリジナリティーを出してもらっても構いません。ポイントは次の通りです。

ポイント①　担任としての信念を伝える

ポイント②　自治的な集団を目指す大切さを伝える
ポイント③　「学校は成長する場所」という価値観を共有する
ポイント④　「成長には挑戦が欠かせない」という価値観を共有する
ポイント⑤　「挑戦には安全が欠かせない」という価値観を共有する

ポイント①担任としての信念を伝える

学級経営は短期的なものではなく、一年間を使って行なう長期的なものです。だからこそ、計画的に進めていくことが必要で、この計画の軸となるのは担任の想いです。もちろん生徒が自発的に目標などを立てていきますが、それらの活動全体に一貫性をもって関わるための想いです。

この想いを生徒と共有することで、まずは対教師について心理的に安全な存在であることを伝えておくことが大事です。

自分が大切にしていることは自分なりの言葉で伝える事が大事です。借りてきた言葉では自分の言動が伴わず、矛盾した言動をしてしまう恐れがあります。きれいな言葉でなくても、どこかで聞いた理想論より、自分のこれまでの経験から感じたことや学んだことの方が、具体的なエピソードも話せるので、熱量もこもって生徒には伝わりやすくなるものです。

もちろん、「これだけは大切にしたい」という想いは、経験や歳を重ねていく中で変化して

学級通信のフォーマット

「教師の信念を示した文章」

①上記信念の意味を紹介する。

②そう思った具体的なエピソードなどを紹介する。

③生徒と向き合う姿勢を紹介し、「生徒に願うこと」を記す

「心」を育てる

私が「教師になる」と心に決めたのは、高校3年生の秋でした。高校生のころの私は、毎日必死でバスケットに打ち込んでいました。夢中でした。毎日の練習はハードでしたが、上達していくことが嬉しくて完全にのめり込んでいました。その高校の3年間で最も学んだことは「心」です。恩師の「バスケットを通して心を育てろ」という教えのもと、3年間バスケットに取り組むことで、「努力する力」「継続する力」「仲間を思いやること」「仲間と協力すること」など、数え切れないほど多くのことを学びました。そして、実感しました。

「磨かれた心は、一生の武器になる」

だからこそ、私も、教師になって、「生徒の心を育てたい。」と思うようになりました。18歳の秋に決めたこの決意は、今も変わらぬ私の信念となっています。そんな、想いのこもった言葉だからこそ、学級通信のタイトルにもしています。これからの1年間で、皆さんの心の成長を楽しみにしています。

心が変われば、人生が変わる

いくでしょう。今の自分が、「これだけは大切にしたい」と心から思える信念を言語化し、共有しましょう。この信念が、一年間の学級経営の中で必ず道標になり、一貫した指導につながります。

私の場合は、「心を育てる」を信念にしています。

ポイント②　自治的な集団を目指す大切さを伝える

「自治的集団」を目指して

あなたたちは、あと1年で卒業します。小学校を卒業し、新たな中学校生活が始まったように、卒業とは、新たな始まりであり、おめでたいことです。

しかし、卒業するということは、○○中学校と、○○中学校の仲間と、そして、○○中学校の教師との別れが訪れます。

私たち教師が、あなた達と毎日のように一緒に過ごすことができるのは、あなた達が学校にいるあと1年間だけです。しかし、あなた達の人生はまだまだ続きます。今、「人生100年時代」といわれるようになってきました。もし仮に、100歳まで生きるとすると、中学校を15歳で卒業した後に、100歳まで残り85年もあります。私たちにとって、今この瞬間を大切に生きることはとても大切なことですが、人生という長い目で見たら、中学校生活とはほんの少しの時間なのです。

人生の中で、私たち教師があなたとかかわることができる時間が短く、卒業すればそばにいることができないからこそ、あなたには、「自立」して欲しいのです。そして、クラスを「自治」する力を身につけて欲しいのです。

「問題を教師が解決するクラス」

ではなく、

「苦戦しながらも自分たちが問題を解決できるクラス」

になって欲しいのです。

中学校を卒業した後も、新たに出会う仲間と共に手を取り、未来を切り開くことができるようになってください。

あなた達一人ひとりの成長を楽しみにしています。

詳しくは、一三ページに書きましたが、自治的なチームを目指すことが重要です。私の場合は、このように生徒に伝えます。上の文は、私が三年生の担任をした時の学級通信の一部です。

ポイント③「学校は成長する場所」という価値観を共有する

学校には何の為に来るのか？　この問いには、様々な答えが出てきそうですが、私はいつも生徒には、「学校は成長する場である」と伝えています。学校は成長する場であるという共通認識を持っておく事は非常に大切な事です。私は、生徒には「できないことができるようになる喜び」を感じて欲しいと思っています。

余談にはなりますが、自分を成長させるために学校に来るという認識があれば、授業中に寝ている生徒が、「誰にも迷惑をかけていないから僕は寝ていていいんです。」と発言した時に、「寝ていては自分を成長させることができないからだめだ」と毅然と対応することができます。

私は、生徒に「行ってきます」の自分と「ただいま」の自分が少しでも成長できている事を目指そうと話しています。

何のために学校に来るのか

学校は教育を受ける場所です。教育とは、辞書によると、「知識、技術などを教え授けること。人を導いて善良な人間とすること。人間に内在する素質、能力を発展させ、これを助長する作用。人間を望ましい姿に変化させ、価値を実現させる活動。」とあります。

つまり、

学校は学ぶ場であり、成長する場である

ということを覚えておいてください。

これまで、「授業」「休み時間」「学校行事」「委員会活動」「クラブ活動」と、様々な場面で、たくさんのことを学んできたはずです。そして、これからも多くのことを学び、残りの一年間で成長できるだけ成長してください。朝起きて、1日を過ごした自分と、1日を終え、寝るときの自分が少しでも変化できることを目指して。

その積み重ねが、とんでもない成長につながります。

ポイント④「成長には挑戦が欠かせない」という価値観を共有する

成長のためには「挑戦」が欠かせない

これまで、「**心を育てる**」や「**学校は学ぶ場所であり、成長する場所である**」という話をしました。では、成長するために必要なことは何でしょうか。

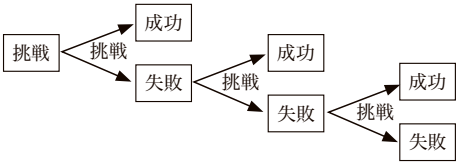
それは、「**挑戦すること**」です。

成長するということは、今の自分にできないことに取り組むということです。つまり、できるか、できないかわからないことに挑戦する必要があるのです。

挑戦の先に……

何かに挑戦するということは、必ず結果がでます。成功したら、とても嬉しいものです。自分の成長を感じとることができます。しかし、失敗した時にどうするかが大切です。ここで心の強さがためされます。

必ず成功するための唯一の方法は、「成功するまで挑戦し続けること」です。



失敗は恥ずかしく悔しいものかもしれません。でも、悪いものではないのです。あのエジソンも「**私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。**」と言っています。だから、失敗は悪いものではない！

挑戦することは誇り高きこと
挑戦し続ける人であれ

成長する為には挑戦することは欠かせません。成長とは、できないことができるようになることです。だからこそ、できないことに挑戦する必要があるのです。居心地のいい場所（コンフォートゾーン）にいるだけでは成長はありません。自分ができることばかりを繰り返すのではなく、成長する為の唯一の方法が挑戦であることを伝え、勇気を持って挑戦することを促しましょう。

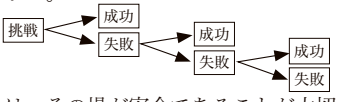
ポイント⑤「挑戦には安全が欠かせない」という価値観を共有する

挑戦するために欠かせないものは、「安全であること」です。挑戦して失敗した時に、クラスメイトが馬鹿にしたり攻撃したりするのではなく、失敗を受け入れ、励ましてくれることで、また挑戦する勇気が湧いてきます。生徒一人ひとりの心理的安全性を高めることで、挑戦することができるようになるのです。

「挑戦」のためには「安全」が欠かせない

以前、「**学校は学ぶ場所であり、成長する場所である**」や「**成長には挑戦が欠かせない**」という話をしました。

では、どうすれば挑戦を続けることができるのでしょうか。



それは、その場が安全であることが大切です。

想像してください。もし自分が、勇気を振り絞って授業で手をあげて発表して間違えてしまったときに、まわりから、「だっさー」「かっこわるー」「しったかぶりやん」などといった暴言と共に、笑い声が聞こえてきたとしたら……

次の機会に、もう一度挑戦できると思いますか。きっとできない人がほとんどではないでしょうか。**心無い一言で、仲間の成長を妨げることになる**のです。だから、**自分が失敗しても受け入れられる「安全」や「安心感」が必要**なのです。

ルールを守ることが「安全」をつくりだす

ルールがなぜできたかというと、「**中学校に来る全員が気持ちよく学校生活を送るため**」や「**危険を回避するため**」です。例えば……「時間を守る」というルールがあります。もし、時間を守れずに遅れてくる人がいると、時間を守って着席している人たちにとっては迷惑になります。先生から大切な話を聞いている時に、遅れてきた人が後から入ってきたとします。すると、話を聞いている人の意識は遅れてきた人に向き、話が中断されます。一生懸命頑張っている人の気が散ります。あなたも、映画館で好きな映画を見ている時に、いいところで他の人が自分の前を通過したり、邪魔をされたら嫌な思いをするのではないでしょうか。

ルールを守っていくことが、「**安全・安心で居心地のいい学級」を作ることに繋がる**のです。また、**ルールだけでなく、マナーやモラルも大切**にして欲しいものです。

自分で正しい善悪の判断をできることを「自律」といいます。
このクラスの全員にとって安全な空間を作るためにはどうすればいいのでしょうか？